

道徳の **考える道徳**のための**道徳ノート** / **ノートづくりは、生き方づくり**



岡山県倉敷市立第一福田小学校 教諭 瀬戸山 博子

愛知県名古屋市立下志段味小学校 教諭 竹井 秀文

筑波大学附属小学校 教諭 加藤 宣行

埼玉県和光市立第五小学校 教諭 古見 豪基

【加藤】道徳ノートには、どんなメリットがあるのでしょうか。

【瀬戸山】授業では、発言する児童が偏ってしまいがちですが、発言できない児童の考えをノートで見取することで、教師が把握することができます。それにノートに書かれた児童の意見を朝の会などで紹介し、クラス全体で深めることなどもできます。

【古見】児童は書くことによって、考えを整理できていると思います。書かないと、「苦しい」とか「優しい」など心情的な気持ちだけを発露して終わる場合が多いですが、書かせるとその理由も一緒に書くことができ、論理的に考える力が育つと思います。

【竹井】書くことと考えることはイコールなので、学ばべき価値のある内容項目などが自問自答できて、それが磨かれ、考え方が構築されていくのだと思います。道徳ノートはそれがトレーニングできるツールだと思います。

【加藤】道徳ノートのメリットを整理してみます。

道徳ノートのメリット

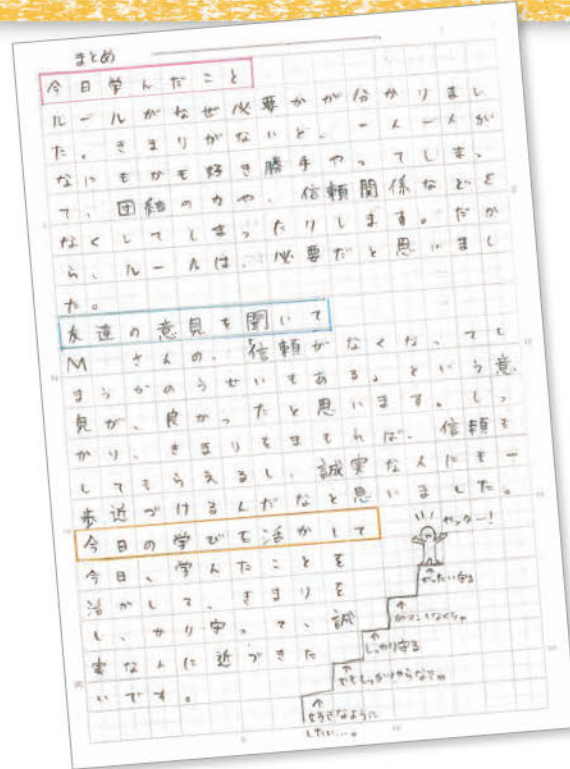
- 1. 発言が保障できる。**
授業中に発言できない児童も、自分の考えを表出することですっきりしたり、考えて意味が分かったりする。教師も個別の見取りができる。
- 2. 「つなぎ」「継続」に生かせる。⇒蓄積の効果**
事後活動に使ったり、その時間で解決できなかったものをあとで調べたり、他の教科・領域や以降の学校活動に生かしたりできる。(児童も教師も)
- 3. 思考ツールとして役立つ。**
自分の考えを整理したり自問自答したりできる。黒板やノートの丸写しでなく、考えるトレーニングツールとしての魅力がある。

【加藤】道徳ノートの書かせ方として、観点や視点はありますか。

【古見】「自由に書いてよい。」としては少し不安なので、年度の初めに手引き的なものを用意して、書く観点を示してあげます。道徳と生活をつなげたいので、以下の3つの観点を用意しています。

- 授業で学習して分かったこと。
- 友達の意見を聞いて自分が思ったこと。
- これからどう生かしていきたいか。

また、以前学習した先輩児童が書いたもの(モデル)を示すなどの工夫もしています。



【瀬戸山】私は自由度の高い使い方をしています。授業では無理にノートに書くのではなく、発言することを優先(集中)するよう指導しています。でも足跡としては残してほしいので、まとめて提示したことについては書かせます。何ページも書く児童がいたり図にまとめる児童がいたりして、他の教科より個性がとでも強く出て、生き方が表出していると思うので、ノートの自由度は高くしたいと思っています。

【竹井】分からないことも「？」で表現させるなどして、心の状態をノートに残させるようにしています。ノートが心の写し鏡のようにになっているからこそ、児童の宝物になるのだと思います。私は、ノートに書く観点として古見先生の観点の他に以下を示しています。

- 分かったことをできるだけ多く書いたり、短くまとめたりする。(⇒思考の拡散、要約のトレーニング)
- 家に帰って書く。(⇒考えを継続して広げる。)
- 生活で生かしたことを書く。(⇒問い続ける。)

【加藤】最初はオリエンテーション的に方向性を示してあげるような、ノート指導も必要だろうということですね。最終的に自由度を高めて児童一人ひとりの宝物のノートになるという見通しのもとに、学年やクラス、その児童に応じた個別のノート指導の対応が必要なのだろうと思います。

ノートづくりのヒント(構成要素)

- ▶ 言葉⇒人間の6割は文字で理解すると言われている。
- ▶ 図⇒視覚的に理解する。関係性を表現するなど。
- ▶ 色⇒分類(識別)したり強調したりする。
- ▶ マーク⇒オリジナリティ



【加藤】それでは、道徳ノートへのコメントの書き方について、どのようにしているか教えてください。

【古見】学び方を励ますなど、また次にそうしたくなるようにコメントしています。自分の経験のことを書く児童には、それに対して“〇〇しなさい。”ではなく、“〇〇のような考え方もあるよ。”と示唆や問いかけをして、ノートを通して対話するイメージで書きます。

【瀬戸山】コメントは、意味づけや価値づけが大切だと思います。児童が気づいていないであろう部分を指摘して気づきを促すことを意識しています。

【竹井】授業には「ねらい」があるので、そのねらいに対応している部分に波線を引くなど、どのように具現化・理解しているかということを見てコメントします。

【加藤】ノートへのコメントとしては、3つ出ました。

1. 学び方に対するコメント
2. 児童の考え方に対する意味づけ・価値づけ
3. 意欲づけ⇒励ましの評価になり、これが道徳の評価につながる。

【加藤】それからコメントの観点に追加して、「事後活動を示唆する。」も大事だと思っています。例えば、“あなたが気づいたことを使って、分かったことがあったら教えてね。”という類のコメントです。児童の背中を押してあげるようなコメントも大切なのではないでしょうか。

【加藤】最後に、道徳ノートに対する先生方の思いをお聞かせください。

【竹井】ノートに書いて自問自答を繰り返す中で、児童が成長して伸びていく。自分の考えを書くということは自己の生き方をつくることで、言葉を通して理解できた、嬉しいという実感が喜びを生み出します。その連続で子どもたちの心が豊かになり、よりよく生きるということにつながる。まさに豊かな心を育むのは道徳ノートであると思うのです。

【古見】道徳のノートづくりは、他教科の学びにも応用できます。教科だけでなく、サッカーについてのノートをつくって、高めていこうという活動を始めているサッカー好きの児童もいます。道徳ノートを進めると、主体的に生活の中でノートづくりを生かしていこうとします。

【瀬戸山】道徳ノートは、自分の考えや生き方、思いが詰まっているので、その子にとっての宝物になるのだと思います。自分の勉強部屋の本棚にいつまでも取って置きたい1冊になってほしいです。

道徳ノートづくりは、生き方づくり



児童の道徳ノートを1時間1時間きめ細かく見取り、児童と対話するように、児童一人ひとりにふさわしい具体的な表現でコメントをつけます。そのノートを振り返ると、教師にとっては、「大きく」の評価がしやすくなります。また児童にとっては、そのコメントによって、自分がどれだけ成長したかの個人内評価や自己評価もできますよね。“ああ、自分はこんなに変わったんだ!”という児童の認識はとても大きな自信に、そして自己肯定感につながります。指導と評価の一体化ですね。また、それこそが、よい学級づくりにつながっていくのだと思います。

道徳ノートを通して児童と対話し、いずれはそれが豊かな生き方につながってくる、まさに「道徳ノートづくりは、生き方づくり」ということですね。